

## 令和6年度 コア会議報告

### 今年度の取り組み：

昨年度に引き続き、南晴病院入院患者に対する退院・地域移行への働きかけを通して、庁内外の関係機関の連携強化や地域資源の共有を図り、効果的な啓発について検討する。

### 背景：

- ・長期入院者は退院までのプロセスがイメージしづらく、また、退院後の生活への不安が大きいため、病的には退院可能であっても地域移行が進まない現状がある。
- ・これまでの退院支援は個別支援が主であり、集団へのアプローチを行うことで、効率的に退院への意欲を高めることができるのではないかと。
- ・これまでも各機関が個々に連携し様々な取り組みを行ってきたが、協働することでより効率的・効果的に実施する仕組みづくりを目指す。

### 経過：

#### 【令和5年度】

- ・南晴病院入院患者へのアンケートを実施し、地域生活に対する希望や不安などを把握した。
- ・入院患者のニーズを基に、全体に向けた退院支援に関する説明会を実施した。

#### 【令和6年度】

対象者別に、2つのテーマで小集団アプローチを実施した。

##### ①当事者の話(令和6年8月22日実施)

病状が安定し退院の検討が可能な方を対象に実施。12名参加。

##### ②介護保険の話(令和6年9月25日実施)

65歳以上及び64歳以下の参加希望のある方を対象に実施。15名参加。

### 評価：

- ・取り組みを通し、入院患者が病院外部との関わりを維持することが退院の意欲喚起に繋がることを、支援者が共通認識として持つことができた。
- ・属性の近い小集団を対象に実施することで、患者のニーズや伝えたい情報が明確になった。

### 課題：

- ・参加した患者の反応は様々であり、集団的アプローチで基本的な情報を提供しつつ、その場では出なかった個別性の高い疑問や質問にも対応することで、より高い効果が得られるのではないかと。持続可能な働きかけの方法を検討する必要がある。
- ・南晴病院以外の長期入院患者へこの取り組みを活用する検討が必要である。

### 今後の予定：

- ・令和7年2月 第3回コア会議にて、今年度の取り組みを総括し、次年度以降どのように展開していくか検討する。